



フィリピンと日本で地域の人々が主役のまちづくりを促進する



NPOハロハロ

<ハロハロのSDGs取り組み資料>

パートナーシップで一緒に達成を目指しませんか？

誰もが魅力的に働き生きる社会を目指して



NPOハコハコのSDGsターゲット



NPOハロハロの取り組み



1 貧困をなくそう

(フィリピン)

- ・雑貨やアクセサリーづくりなどの手工芸
- ・マイクロクレジット（少額資金融資）による零細自営業の活性化
- ・教育を受けた子どもたちが就職できる可能性を増やす
- ・環境美化による農業水産業の活性化



4 質の高い教育をみんなに

(フィリピン)

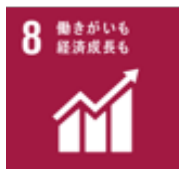
- ・幼児教育の場づくり
- ・大学進学卒業者を増やす



5 ジェンダー平等を実現しよう

(日本とフィリピン)

- ・雑貨やアクセサリーづくりなどの手工芸
- ・エシカルなまちづくり



8 働きがいも経済成長も

(日本・フィリピン)

- ・雑貨やアクセサリーづくりなどの手工芸
- ・少額資金融資
- ・エシカルなまちづくり



10 人や国の不平等をなくそう

(日本・フィリピン)

- ・市民活動の促進や、市民活動を担う人材育成
- ・手工芸、水産業、金融サービスなどに関する技術の学び合いの場づくり



11 住み続けられるまちづくりを

(フィリピン)

- ・マングローブ植樹保全活動
- ・ごみの分別回収処理の整備
- ・トイレの整備



12 つくる責任 つかう責任

(フィリピン・日本)

- ・雑貨やアクセサリーづくりなどの手工芸（廃棄するものや自然素材を利用）
- ・ごみの分別回収処理の整備（燃料化、堆肥化など廃棄物の活用促進）



14 海の豊かさを守ろう

(フィリピン)

- ・マングローブ植樹保全活動
- ・沿岸部のごみ拾い活動
- ・エコツアーの実施



17 パートナリシップで目標を達成しよう

(フィリピン・日本)

- ・日本人とフィリピン人とがパートナーシップのもと、グローバル課題に対して自分事として行動に移す機会を提供

団体概要

特定非営利活動法人ハロハロ

援助ではなく、働く機会を。世界にチャンス。

2012年12月法人設立
(任意団体発足2008年10月)

ビジョン (目指す社会)

すべての人が魅力的に働き生きる社会

ミッション (取り組み)

フィリピンと日本の人々のパートナーシップを築き、
持続可能な働く機会を広げます。
豊かさを共有できるライフスタイルを世界に広げます。



活動地域



東京

千葉

マニラ

セブ

ボホール

1: マニラ

リサール州ロドリゲス

2: セブ

(中部) タリサイ市ドゥムログ

Sitio ルーマ・ホープ

(北部) メデリン市パヌグナワン

3: ボホール

ヘタフェ市アルマー

4: 日本

千葉県

東京都港区

八口八口の活動とSDGs 協働事例集

1) LIVELIHOOD 生計向上 P6-7

- ・手工芸
- ・少額資金融資

2) EDUCATION 教育 P8

- ・幼児教育 幼稚園
- ・高等教育 大学奨学金制度

3) ENRICHENMENT 啓発

Internation Culture Exchange 国際理解 P9

- ・スタディツアー

ENVIRONMENT 環境 P10-11

- ・地域清掃と廃棄物回収処理
- ・マングローブ植樹保全

1) LIVELIHOOD



生計向上

ハロハロの活動

活動事例1：手工芸

【概要】

マニラとセブの女性たちと、女性の社会的経済的自立を目指す雑貨づくり事業を運営
エシカルブランド「AngKyut」と「NINDOT」を立ち上げ、日本で販売中

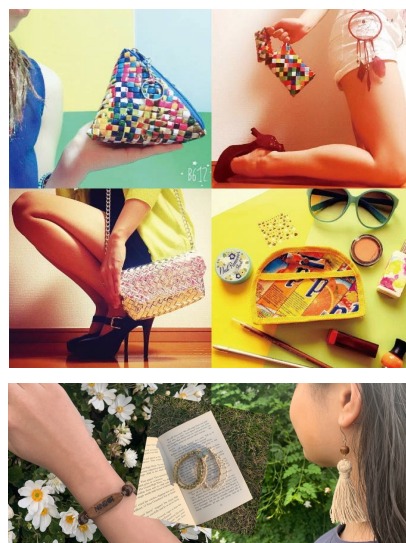
【現地協働パートナー】

マニラ女性グループ Erap Mindset

→ 米袋やスナック袋などの廃材を活用し、バッグや小物雑貨を製作

セブ女性グループ MARS

→ 自然素材を活用したアクセサリーを製作



活動事例2：小額資金融資

【概要】

セブの住民グループによる、零細自営業者への金融サービスづくり
貧困地域の人々が利用できる少額貸付（マイクロファイナンス）などの金融サービスを、組合を設立することを目標に整備中

【現地協働パートナー】

NGO Tulay sa Kinabuhi

Dumlog Unifide Fishermen Association

New Life Saving



1) LIVELIHOOD

生計向上

パートナーシップ事例



協働事例1



協働先：Feliz様(個人事業、現在廃業)

地域：セブ州タリサイ市

【概要】

セブの女性たちに、アクセサリー作りを指導（3年間の講習）
セブの良質なシェル素材などの入手経路開拓

【成果】

シンプルで良質なアクセサリーの作成技能向上
・マクラメ編プレスレット
・シェルプレスレット
オリジナルブランドNINDOTの立ち上げ



協働事例2

協働先：Calbee URC様

地域：ロドリゲス州リサール（マニラ）

【概要】

フィリピン・マニラのURC社様の端材を、ハロハロマニラ事業地で取り組む手工芸による女性たちの生計支援事業に寄贈いただき活用中

【成果】

7名の女性たちの手工芸技術の獲得と副収入、エンパワメントにつながっている



NPO HALOHALO のマニラ事業地で行う廃材を活用した生計支援事業は、Calbee, Inc 様からの支援・協力のもと、URC 社様の端材をご寄贈いただき、一部の製品作りに活用させていただきます。

特定非営利活動法人 八口八口

2) EDUCATION

教育

ハロハロの活動

活動事例1：幼児教育 幼稚園

【概要】

セブの現地NGOと取り組む地域の次世代人材育成として、セブでの幼稚園の運営を支援

【現地協働パートナー】

NGO Tulay sa Kinabuhi



活動事例2：高等教育 大学奨学金制度

【概要】

セブの現地NGOと取り組む地域の次世代人材育成として、大学奨学金制度を支援
幼児教育と大学奨学金制度から、「地域に循環する教育」の輪をつくり、貧困の連鎖のSTOPに挑戦中

【現地協働パートナー】

NGO Tulay sa Kinabuhi



パートナーシップ事例

協働事例

協働先：らぁ麺屋ひろ様

地域：セブ州タリサイ市

【概要】

幼児教育の場もなく、大学進学のお機会も絶たれていたセブの漁村地域に、幼稚園と、大学奨学金制度を同時にスタートさせる。
『らぁ麺屋ひろ教育基金』として、教育基金制度を立ち上げ、そのベースを構築。

【成果】

2015年よりセブ事業地に教育基金システム立ち上げ
2021年現在までに大学生3名、幼稚園卒業生90名を輩出
2020年度より『ハロハロ教育基金』と名称を改め、より多くの支援者と継続可能なシステムに変化



Thank you for your cooperation!!



3) ENLIGHTENMENT

啓発

International Culture Exchange

国際理解

ハロハロの活動



活動事例1：スタディツアー（バーチャルツアー）

【概要】

日本の学生や社会人と、フィリピンの人々が交流し、相互に国際理解を深め、社会課題の解決の力を養うグローバル人材の育成などを視野にいれ、現地訪問ツアーやバーチャルツアーなどを実施

【現地協働パートナー】

NGO Tulay sa Kinabuhi
Alumar Seaweed Farmers Association
NGO Paaralang Pantao
ほか複数の地域住民グループ

パートナーシップ事例

協働事例：

協働先：教育機関/団体など（以下敬称略）

東洋大学、千葉大学、慶應義塾大学、JEC連合 ほか

地域：セブ州タリサイ市、ロドリゲス州リサル(マニラ)、ボホール州ヘタフェ市

【概要】

地域に1週間滞在しながら、現地のNGOや住民グループの取り組みを視察。ケースにより地域行政や公立学校などへの表敬訪問なども実施。地域の人々や学生たちとのディスカッションや交流なども実施。

【成果】

国際理解の促進
社会課題や国際問題の分析
グローバル社会でのリーダーシップの育成など



3) ENLIGHTENMENT

啓発

Environment 環境

ハロハロの活動



活動事例1：地域清掃と廃棄物回収処理

【概要】

セブの女性グループとボホールの海藻組合では、定期的なごみ拾い活動を実施し、地域住民の環境美化意識を啓発。ごみの分別方針策定や、ごみの回収処理システムについても地域行政とともに意見交換を実施中。不法投棄を抑制するための地域緑化や看板設置、3R促進のため地域会議を行い、各種取り組みを実践中。

【現地協働パートナー】

Hope Mothers Group
Alumar Seaweed Farmers Association



活動事例2：マングローブ植樹保全

【概要】

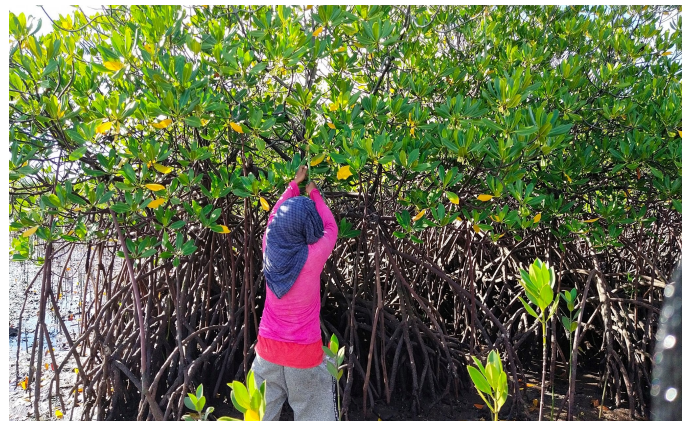
ボホール州アルマー島におけるマングローブの植樹と保全活動。マングローブの森に囲まれた海藻栽培の島づくり。

【成果】

アルマー島の主要産業である海藻栽培の活性化へ貢献。

【現地協働パートナー】

Alumar Seaweed Farmers Association



3) ENLIGHTENMENT

啓発

Environment 環境

パートナーシップ事例



協働事例1 :

協働先 : TOTO水環境基金

地域 : ポホール州アルマー島

【概要】

アルマー島で『島民みんなでマングローブの森のある豊かな島づくり』活動の実施
マングローブの植樹保全活動及び地域沿岸部の清掃活動、ごみの分別回収の促進事業などを同時展開

【成果】

2018～2020年で20万本のマングローブを植樹
地域沿岸部清掃活動の定期化
ごみの分別集積所の設置と、本島へのプラスチックごみ運搬



協働事例2 :

協働先 : AEON環境財団

地域 : ポホール州アルマー島

【概要】

アルマー島でマングローブ植樹による生物多様性のある沿岸部環境の保全および啓発活動の実施

【成果】

2020年～2021年で1万本のマングローブを植樹



事業運営責任者

HARUKA NARUSE
成瀬 悠
事務局長



1981年 千葉県生まれ（38歳）
印刷会社営業補佐勤務
2008年 個人事業ハロハロプロダクツ開始
2009年 NPO任意団体に変更
2012年 NPO法人ハロハロ設立
理事長兼事務局長就任
2019年 理事長辞任
現在 事務局長
〈受賞歴〉 JCI JAPAN TOYP2020 会頭賞

SHERAH JANE RADA
(Girlie)
フィリピン事業統括



1983年 フィリピン南部スルー諸島生まれ
（36歳）
コーヒーショップアルバイト、セブ市内キリスト
教系学校で子ども教室開発担当など
2014年 ハロハロ事業関与
2015年 セブ事業統括
2019年 フィリピン事業統括

団体設立の経緯

2010年に現事務局成瀬がフィリピンを訪問し、セブとマニラで現在の協働団体となる人々と出会い、地域発展活動へ志を同じくすることを確認。

その後、成瀬は日本にNPOハロハロを、マニラではJayCoben氏が事務局長となりNGO Paarlang Pantao を、セブではGlemar Rada氏が代表となりNGO Tulay sa Kinabuhiを設立。それぞれの地域に密着した社会貢献活動を行ってきた。

2019年に、セブ・マニラそして日本の相互の事業地をこえたダイナミックな事業を行うべく、会計や事業の透明性の担保、雇用の促進から、NGO Sharing is fun too INC(略:SHIFT INC)の立ち上げに至る。

協働実績

協力団体

嵯峨野株式会社（2015～現在）
Gooddo株式会社（2015～現在）
らぁ麺屋ひろ（2015～現在）
Feliz（2015～2018）
アイストリーム株式会社（2015～2018）
Palette（2017～2018）
Class for Everyone（2014～2016）

助成団体

公益財団法人日本国際協力財団
NPO一般型助成（2014・2015・2021）、NPO成長型助成（2016～2019）、
組織基盤強化助成（2020～現在）
JEC連合 スマイルbyJEC（2016～現在）
連合・愛のカンパ（2020～現在）
イオン環境活動助成（2019～現在）
TOTO水環境基金（2018～2020）
公益財団法人生協総合研究所アジア生協協力基金（2017～2019）
公益信託アドラ国際援助基金（2017）
港区NPO活動助成（2020）
大塚商会ハートフル基金（2018）
地球環境基金（2019・2021）
株式会社BLOC APPLICATION（2018）
大阪コミュニティ財団（2019）

講演先

慶應義塾大学
神田外語大学
埼玉大学
千葉大学
立教大学
東洋大学
長崎大学
文教大学
徳島県立城東高等学校
千葉県立流山高校
千葉県立鎌ヶ谷高校
東京都立千早高校
専修大学松戸中学校
千葉県小中台小学校
NPO地球市民交流基金アーシアン
世界平和女性連合
JEC連合海外ボランティアを支援する会
公益財団法人日本女性学習財団
千葉市民活動支援センター
四街道市ボランティアセンター ほか